

現代の恋愛観に関する考察

1170423 黒飛 めぐみ

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

恋愛は青年期に入った個体にとって重大な課題であり（キン, 2009）、恋愛研究の進展とともに、恋愛に関するさまざまな理論が提唱されてきた。例えば、Davis (1985)によれば、恋愛感情は友情に誘惑や性的衝動、排他性、あるいは擁護、さらには援助が加味されたものである。また Sternberg (1988)によれば、恋愛は、親密性、情熱、決心/コミットメントという3つの成分をもとに、それらの組み合わせも含めて7種類の型があるとされる。その他に、Shaver, Hazen, & Bradshaw (1988)は、恋愛関係と乳幼児期の母子関係との類似性に着目し、アタッチメント、養護、セクシャリティの側面から恋愛を説明しようと試みている（これらについての詳細は、水野, 2006を参照）。最終的に恋人関係になる際、人は、どのように相手（一人）を選択するのだろうか。また一人を選択した後、付き合っていくにつれ交際相手のことを「恋人」ではなく「友人」として感じるようになる場合もある。豊田、藤田 (2001)によれば、これに関しては男性より女性のほうが感じるようである。すなわち、女子が男子よりも愛情と好意を区別する傾向が強く、「恋人」に対する感情と「異性の友人」に対するそれを区別していることが示されている。一方、男子は女子に比べてこれらを区別できないとされる。男女の違いは他にもある。恋愛の相手に対する感情の程度は、恋愛が進行していくにつれ、男女とも上昇していくが、男性が恋愛の初期に急激に熱愛得点が増加するのに対し、女性は徐々に上昇していき、恋愛の完成期に最も急激に上昇する。このことは実証的に検証されている。現在、恋人が存在し、その相手との恋愛が進行中のものを「恋愛群」、過去には恋人が存在したが、現在は存在しない人を「失恋群」、また最も親しい異性として恋人以外の異性を選択したものを「未経験群」とすると、失恋群の男性が相手に対する愛情が極端に低下するのに対して、失恋群の女性は相手に対する愛情の低下が極端とはならない（飛田, 1991）。このように、性差あるいは経験によって恋愛に対する姿勢あるいは作用は異なる。

一方で、特に交際相手への不満はないにもかかわらず、恋

人関係より友人関係のほうが良いと感じることもある。この場合、相手に対する良好なイメージは少なくとも異性の友人としては有していることになる。しかし、恋愛感情には発展しない、あるいは恋愛感情への発展を取りやめる場合がある。このような現象は何が要因となっているのだろうか。根本的に恋人と友人の「好き」にはどのような違いがあるのだろうか。これが本研究における基本的な問題意識である。本研究では、恋愛の定義、形成プロセスおよび問題点について、現代の文学作品からこれらを検討することを目的としている。これにより、現代の恋愛に潜む特徴を明らかにするとともに、課題についても検討することができる。以下に示すように現代は恋愛に関連する様々な社会問題が存在する。このような現代において、現代の恋愛が抱える課題を検討することには意味があると考えられる。

2. 背景

現在、恋愛を取り巻く社会現象として、ストーカーやそれらから派生する殺人事件、ドメスティック・バイオレンス (DV) 等が問題視されている。平成 28 年度生活安全局生活安全企画課刑事局捜査第一課の「平成 27 年におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等の対応状況の調査結果」によれば、ストーカー事案の相談件数は平成 23 年 (14,618 件) から平成 26 年 (22,823 件) まで増大しており、平成 27 年 (21,968 件) は微減したものの平成 24 年以降は高水準で推移している (図 1 参照)。



図 1 ストーカー事案への対応状況

「平成 27 年におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力

事案等の対応状況の調査結果」生活安全局生活安全企画課刑事局捜査第一課 平成 28 年

また、被害者と加害者の関係が配偶者及び交際相手である場合が全体の約 6 割を占めている。平成 23 年の特定の者からの被害が 14,303 件あり、このうち配偶者（内縁・元含む）からの被害が 1,279 件、交際相手（元含む）からの被害が 7,741 件となっている。さらに平成 27 年の特定の者からの被害 21,398 件のうち配偶者（内縁・元含む）からが 1,690 件、交際相手（元含む）からが 10,888 件となっている。

法務省によると平成 22 年の殺人事件について主たる被害者との関係は、その総数 234 のうち親族が 30.3%、面識ありが（友人・知人・職場関係者・交際相手等）58.5%、面識なしが 11.1%という構成比になっている。一方動機の区分として痴情・異性関係のトラブルの総数 22 件のうち、親族が 5 件、面識ありが 17 件となっている。

さらに DV による問題も年々上昇傾向にある。先の「平成 27 年における配偶者からの暴力事案等の対応状況の調査結果」によると、平成 23 年度（34,329 件）から平成 27 年度（53,915 件）にまで右肩上がりが増大している（図 2）。



図 2 配偶者からの暴力事案等への対応

「平成 27 年におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等の対応状況の調査結果」生活安全局生活安全企画課刑事局捜査第一課 平成 28 年

また、平成 26 年度の「内閣府男女共同参画局の男女間における暴力に関する調査の調査結果」では、交際相手から暴力を受けたあとの行動について、別れた（52.7%）、別れたと思ったが別れなかった（26.4%）、別れたいと思わなかった（20.5%）となり、暴力行為を受けても半数以上が結果的に別れないという行動をとっていた。別れたいと思わなかった主な理由は「相手が変わってくれるかもしれないと思

たから」（50.0%）や「相手には自分が必要だと思ったから」（27.8%）などの理由が挙げられている（図 3 参照）。

このように恋愛それ自体はポジティブな行為であるが、同時にストーカーや殺人など、非常に深刻な問題を内包している。このような背景から、現在の恋愛観というものがどういふものであるのか、またそれに根ざしている問題とは何であるのか、さらに歴史的にどのように変化してきたのかについて検討することには意味があるといえる。

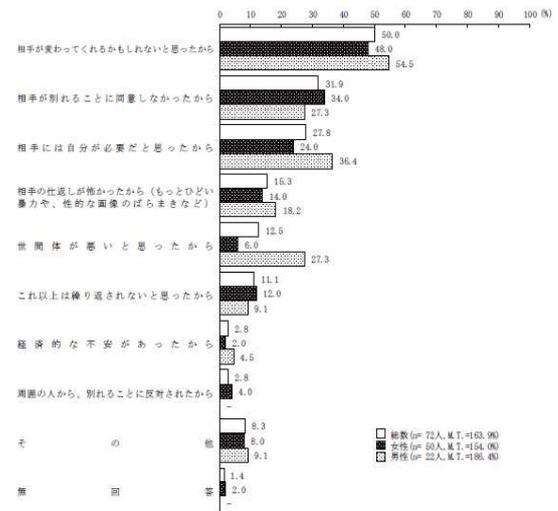


図 3 交際相手と別れなかった理由（複数回答）

平成 26 年度の男女間における暴力に関する調査の調査結果（内閣府男女共同参画局 平成 26 年）

3. 目的

本研究の目的は、対象となる異性同士が交際をどのように成立させるかを明らかにすることではない。むしろ交際相手として意識するまでの心境や出来事、環境などを検討することを目的としている。これらが明らかになることによって、現代の恋愛観が明らかになり、もし問題があるとしたらそれは何であるのかを検討することが可能となる。

4. 研究方法

本研究では、現代の恋愛観の検討にあたり、著名な現代文学作品に描かれる恋愛観を検討する。文学作品とは出版された時代を映す鏡である。有名作品ほど共感者が多く、その時代の特徴を表すと考えられる。

5. 結果

表1 (付録) には 2000 年以降の恋愛を題材とした文学作品において、恋愛を支配し説明するものが何であるのかについて、8つの項目に分類して検討した結果である。

これを見ると、第1に「交友関係から恋愛関係に発展する」、「互いの共通点(趣味等)が存在する」、「友情関係からスタートするが、性的感情がこれを上回ることによって恋愛に発展する」等が特徴として挙げられる。

第2に恋愛として実るケースが少ないということが挙げられる。互いが恋人として必要かどうか、また相手が自分にとってどういった存在がいいのかを判断した結果、最終的に将来の伴侶として互いに成就することが少ないのである。

6. 考察

現代の恋愛は友人関係と恋愛関係の境界線があいまいであり、個人によってさまざまな解釈をしている。性行動に関する、交際相手との性行動は存在するが、交際相手以外の性行為は浮気や不倫として社会的に批判されてきた。また身体接触の中でも、恋人以外の異性と「キスをする」という行為とそれ以上の行為は、浮気と判断されることが示されている(牧野, 2011)。しかし 2000 年が進むにつれ、安易な考えで浮気や不倫を行う人や、性行動のみを行う友人をつくるといった人も増えつつある。本研究結果や社会の現状をみても、現在の恋愛観は性行動を行ったからといい必ずしも恋愛関係に発展するわけではないことがわかる。互いの共通点から相手を知り、時間をかけて相手を理解していく一方で、何らかのきっかけで性的衝動がこれを上回る。また、付き合いがないという選択肢を行うのは相手のことを考えた行動というよりはむしろ、相手と交際すると破局してしまう可能性が予想されるからなのではないだろうか。無意識のうちに別れ＝失敗というイコールが出来上がり、失敗はしたくないという思いから、このような結末が増えていると考えられる。

以上から、現代の恋愛は、相手の理解からスタートし、これが性的衝動の実行によって恋愛に発展する、あるいは失敗を回避するためにそれ以上の行動は起こさない。しかし、このような恋愛プロセスは、危険も孕んでいる。相手の理解を第1に置くと、その後破局した際、第三者が自分よりも相手を理解する者であるということ認められないのではないだろうか。相手への理解が暴走した場合、自分と相手以外の関係者と排除する、あるいは相手そのものの存在を排除して

しまう可能性もある。これが現代の恋愛に関連する問題(ストーカーやDV)の背景にあるのではないだろうか。

7. 改善策

相手を理解するということと、相手が自分の所有物になることは全く相いれないことであり、このことは幼少期における教育でもっと重視すべきではないだろうか。恋愛関係になったとしても、相手は自分の所有物になるわけもなく、むしろ相手の行動を容認していくこと、つまり異性としての存在を認めていくことに繋がらなければならない。これは、特に小学高学年、あるいは中学生の時代に教育の場でしっかり理解させる必要があると思われる。

8. 今後の課題

本研究では 2000 年以降の文学作品を取り上げているが、さらにその時代を遡り、日本人の恋愛観がどのように変化したかを検討する必要がある。時代ごとの比較することによって、恋愛観に、その時代時代の文化、経済等がどのように影響を与えるのかを知ることができる。

9. 引用文献

- ・生活安全局生活安全企画課刑事局捜査第一課 平成 28 年度「平成 27 年度におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等の対応状況について」2016 (閲覧日: 2017 年 1 月 12 日)
<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/stalker/seianki27STDV.pdf>
- ・h y 東京探偵事務所 「ストーカー被害について(平成 25 年統計)」2014 (閲覧日: 2017 年 1 月 12 日)
<http://www.hytokyo.co.jp/blog/sutouka/>
- ・キン イクン 「青年期における恋愛相手の選択基準とアイデンティティ発達との関係」立教大学心理学研究 立教大学 2009 131-142
http://ci.nii.ac.jp/els/110007041785.pdf?id=ART0008968969&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1484179893&cp=
- ・水野邦夫 「恋愛心理尺度の作成と恋愛傾向の特徴に関する研究」—Lee の理論をもとに—「聖泉論叢」聖泉大学 2006 35-52
http://ci.nii.ac.jp/els/110006426471.pdf?id=ART0008434327&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=

[=&no=1484182928&cp](#)

- ・ Davis, K. E. (1985) Near and Dear : Friendship and love compared. *Psychology Today*,19,22-30
- ・ Shaver, P., Hazen, C., & Bradsaw, D. (1988) Love as attachment : the integration of three behavioral systems. In R. J. Sternberg & M. L. Barnes (Eds.), *The Psychology of Love*. Yale University Press. 68-99.
- ・ Sternberg, R. J. (1988) Triangulating love. In R. J. Sternberg & M. L. Barnes (Eds.), *The Psychology of Love*. Yale University Press. 119-138
- ・ 豊田弘司・藤田正 大学生の愛情と好意における性差 「奈良教育大学研究所紀要」 2001

http://near.nara-edu.ac.jp/bitstream/10105/7075/1/ier37_31-35.pdf

- ・ 飛田操 青年期の恋愛行動の進展について 「福島大学教育学部論集 教育・心理部門」 福島大学教育学部 1991

<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/dspace/bitstream/10270/132/1/7-279.pdf>

- ・ 松井豊 恋愛行動の段階と恋愛意識 1993
- ・ 内閣府 内閣府男女共同参画局 平成 26 年度「男女間における暴力に関する調査」 2014 (閲覧日 : 2017 年 1 月 13 日)

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/h11_to_p.html

- ・ 牧野幸志 「青年期における恋愛と性行動に関する研究(2)」-浮気の判断基準と浮気に対する態度-

http://ci.nii.ac.jp/els/110008704819.pdf?id=ART0009784733&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw

[=&no=1484309871&cp](#)

- ・ 法務省 研究部報告 50 第 2 章 殺人事件の動向 2013
- ・ 山田詠美. 2003. 『A2Z』 講談社文庫
- ・ 平野啓一郎. 2016. 『マチネの終わりに』 毎日新聞出版
- ・ 新海誠. 2007. 『秒速 5 センチメートル』 角川文庫
- ・ 七月隆文. 2014. 『僕は明日、昨日のきみとデートする』 宝島社文庫
- ・ 乾くるみ. 2007. 『イニシエーション・ラブ』 文春文庫
- ・ 中田永一. 2005. 『百瀬、こっちを向いて。』 祥伝社文庫

- ・ 中田永一. 2005. 『なみうちぎわ』 祥伝社文庫
- ・ 中田永一. 2005. 『キャベツ畑に彼の声』 祥伝社文庫
- ・ 住野よる. 2015. 『君の肝臓を食べたい』 双葉社
- ・ 新海誠. 2016. 『君の名は。』 角川文庫
- ・ 有川浩. 2013. 『植物図鑑』 幻冬舎文庫
- ・ 青木琴美. 2009. 『僕の初恋をキミに捧ぐ』 小学館ジュニアシネマ文庫
- ・ 森見登美彦. 2006. 『夜は短し歩けよ乙女』 角川文庫
- ・ 有川浩. 2006. 『レインツリーの国』 新潮文庫
- ・ 窪美澄. 2010. 『ふがいない僕は空をみた』 新潮文庫
- ・ 村上春樹. 2004. 『ノルウェイの森 (上・下)』 講談社文庫
- ・ 恩田陸. 2006. 『夜のピクニック』 新潮文庫

付録

2000年以降の恋愛を題材とした文学作品の表1

作者	作品名	年代	あらすじ	家督主義	性的感情	友情関係から発展	友情関係重視	不倫	依存的恋愛	二人だけの共通点	学生
山田詠美	A2Z	2003	タイトルのA2Zはアルファベット26文字を表している。各章のキーワードとなる単語は、Aから始まり、Zで終わる。主人公は35歳文芸編集者、夏美。夫はライバル社の文芸編集者。夫には恋人がいる。夏美にも恋人がいる。恋とはいったい何なのか…。	0	1	1	0	1	0	0	0
平野啓一郎	マチネの終わりに	2016	毎日新聞とnoteで連載されていた平野啓一郎の長編小説。クラシックギタリストの蒔野と海外の通信社に勤務する洋子の出会いから始まり、二人は惹かれあう。しかし洋子には婚約者がいた。やがて二人はすれ違いが生じ、関係が途絶えてしまう。別々の道を歩む二人が再び交わる日はくるのか…。	0	0	1	1	0	0	1	0
新海誠	秒速5センチメートル	2007	3部構成。タイトルの「秒速5センチメートル」は「桜の花びらの落ちるスピード」 第1話は主人公、遠野貴樹(小学4年生)と篠原明里の出会い。二人は親の仕事の都合で転校を繰り返す中、東京で出会った。二人が中学に入学し半年、貴樹の転校が決まる。二人がまた巡り合うことはできるのか。	0	0	1	1	0	0	1	1
七月隆文	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	2014	京都の美大に通う高寿はある女の子に一目惚れをした。それは愛美という名の女の子だった。高寿は意を決して彼女に声をかけ、交際までこぎつけた。何気なく彼女と過ごして途中で高寿は時折違和感を感じるがあった。愛美には、想像もすることができない大きな秘密が隠されていたのだ。	0	1	1	0	0	0	1	1
乾 くるみ	イニシエーション・ラブ	2007	side-Aとside-Bに分かれた構成となっている。side-Aでは女性経験のない大学生・鈴木夕樹がある女性・繭子に出会い、夕樹は「たっくん」と呼ばれる。二人の初々しい恋愛が描かれている。 side-Bでは、「たっくん」と繭子の東京と静岡での遠距離恋愛が始まる。「たっくん」は東京で出会った女性と関係を持つことになるが、今後の二人の関係はどうなっていくのか…	0	1	1	0	1	0	0	0
中田永一	百瀬、こっちを向いて。	2005	主人公のノボル(地味で友達が少ない)は憧れの先輩・宮崎に自信の二股がばれぬよう協力してくれと頼まれる。ノボルは引き受け、宮崎の二人目の彼女・百瀬と付き合う演技を学校内のみで行う。ある日、宮崎の彼女・神林から四人でダブルデートに誘われる。果たして、ノボルと百瀬、宮崎と神林の四人の関係はどうなるのか…	0	0	1	0	1	0	1	1
中田永一	なみうちぎわ	2006	高校一年生の姫子はある日水難事故に遭う。目が覚めたのは5年後。かつての級友は大学3年生になろうとしていた。姫子が目を覚めるまで、毎日姫子を見舞いをしてきた少年がいる。それは当時高校一年生だった姫子が家庭教師をしていた小太郎(小6)だった。目が覚めてから小太郎と話していくうちに明かされる水難事故の真相とは…	0	0	0	1	0	0	1	1
中田永一	キャベツ畑に彼の声	2007	高校生の小林久里子は、夏休みにあるバイトを始めた。それは「テープおこし」である。出版社に勤めている叔父に紹介されたのだ。久里子はある作家の「テープおこし」を行っている、聞き覚えのある声だと気づいた。それは久里子の高校で国語の教師をしている本田先生のものだった。久里子は本田先生の声に惚れてしまい…	0	0	0	0	0	0	1	1
住野よる	君の臓腑を食べたい	2015	主人公の「僕」は、ある日病院的なロビーで桜良と出会う。「僕」と桜良はクラスメイトだが、あまり話をしたことがない。しかし「僕」は桜良の秘密を知ってしまうことになる。この秘密は桜良の家族以外誰も知らない。秘密を知ってしまった「僕」は桜良との距離が近くなる。果たして桜良の秘密とは…	0	0	1	0	0	0	1	1
新海誠	君の名は。	2016	都会に住む立花瀧と、ど田舎に住む宮水三葉はある日突然入れ替わってしまう。互いの生活を日記に残し入れ替わりを繰り返していく二人。しかし突然、瀧と三葉は入れ替わらなくなってしまう。瀧は記憶をたどりに三葉の地元を訪ねるが…	0	0	1	0	0	0	1	1
有川浩	植物図鑑	2013	25歳の河野さやかは自宅のマンションのポーチの植え込みに倒れていた日下部樹を発見する。この日を境に二人の奇妙な同棲生活が始まるとともに、今まで仕事ばかりのさやかの生活にも変化が訪れる。そんなある日、さやかが帰宅すると樹はいなくなっていた。	0	0	1	0	0	0	1	0
青木琴美	僕の初恋をキミに捧ぐ	2009	父親が医師の繭は、父が勤務する病院で入院している同い年の暁と出会う。互いに恋心を抱く中で、暁が「20歳までは生きられない」と知る。それでも懸命に暁を支える繭。病院での出会いの中で二人の関係はどうなっていくのか…	0	0	1	0	0	0	1	0

表1 続き

森見登美彦	夜は短し歩けよ乙女	2006	主人公の「先輩」は大学の後輩である「黒髪の乙女」に恋をしていた。ヘタレで奥手な先輩は男らしく後輩に近づくことができないため、いくつか作戦を考える。偶然を装い彼女に近づこうとするが彼女は全く振り向かない。果たして先輩の恋はどうなるのか…	0	0	1	0	0	0	0	0	1
有川浩	レインツリーの国	2006	上京3年目の向坂伸行はある日ふと思い出すことがある。それは中学の頃に読んだライトノベル「フェアリーゲーム」のことだ。ネットで「フェアリーゲーム」のことを調べていくうちに、ある女性と出会う。この女性と話がしたいと思った伸行は彼女にメールを送る。しばらく二人はメールのやり取りをしていたのだが…	0	0	1	0	0	0	0	1	0
窪美澄	ふがいない僕は空をみた	2010	助産院を営む母に女手ひとつで育てられた高校生の卓巳は友人に連れられて行ったイベントで、アニメ好きの主婦・里美と出会う。それから卓巳と里美はコスプレをして体の関係をもつようになる。ある日卓巳は同級生に告白され、里美との関係を経とうとするが…	0	1	0	0	1	0	0	0	1
村上春樹	ノルウェイの森(上)	2004	1969年。主人公の「僕」は37歳である。飛行機の中で、ビートルズの「ノルウェイの森」を聞きもうすぐ20歳になろうとしていた秋の出来事を思い出し、激しく混乱し、動揺していた。	0	1	1	0	0	0	0	0	1
村上春樹	ノルウェイの森(下)	2004	大学生生活が始まった「僕」は再び直子と頻りに会うようになる。20歳の誕生日に二人は体の関係をもつことになる。その後直子は精神的に崩れていく。「僕」は同じ学部の緑と出会うが、直子のことが忘れられない。果たして三人の関係はどうなるのか…	0	1	1	0	0	0	0	0	0
恩田陸	夜のピクニック	2006	高校最後のイベント「歩行祭」。それは全校生徒で夜通し80キロ歩くというものである。甲田貴子は三年間誰にも言えなかった秘密がある。級友たちが学生生活の思い出や卒業後の話をする中で、貴子だけは自らの中で小さな賭けをしながら歩いていた…	0	0	1	0	0	0	0	0	1